

蒼空

溝辺中学校進路だより
第30号
令和5年11月24日(金)

三者面談

進路先の決定は、本人と保護者が行うのが基本です。今回の三者面談は、卒業後の進路を決定する大切な面談です。進路選択を先延ばしにすると迷いが生じ勉強に集中できないこともあるので、進路選択を先に延ばすということは考えず、この場で決めるという強い決意で臨んでください。

進路選択(決定)をした皆さんへ

2校目の中学校で弓道部の顧問を経験した。

道場の神棚に『正射必中』(せいしゃひっちゅう)と彫られた板が立てかけてあった。読んで字のごとく、正しい射法を身につけ、正しく射れば、必ず中るという意味だ。部員は、正しく射るための練習を続け、それにともない的中率は伸びていく。しかし、どんなに優れた選手でも7割くらい中るようになると、壁にぶつかり、練習をいくらしても、上達しなくなる。そして、伸び悩んでいるうちにスランプにおちいり、的中率がさがっていくのだ。

そんなとき、練習後のミーティングでコーチが、次のように言われた。

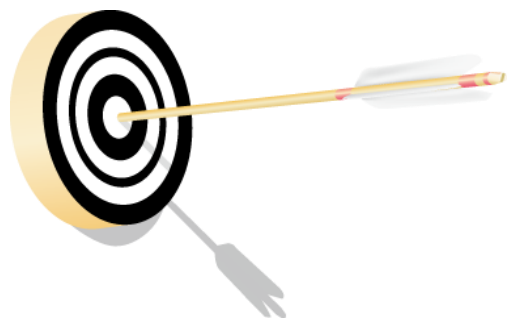
「的は動かない、動くのは心」

動かない的を狙って射っているのに中らないのは、自分の技術の問題でなく心の動揺が原因だという意味である。その後、自分と向き合い努力を続けた部員は、大きな壁(スランプ)を乗り越え、ひと回りもふた回りも成長した。

現在みなさんも、同じような状況だと思う。目標(的)は決まった。その目標は動かない。動くとなれば自分の心だ。

目標(志望校)は決めたものの、今のままで大丈夫なんだろうかという不安や迷い。勉強をさまたげる誘惑。今は雑念を捨て、目標に向かって全力を尽くそう。

練習をしても上達しない、勉強しても成果が出ないということは誰も経験することだ。志望校が決まり、勉強に励んでいるのに、中々成果が表れず焦っている人もいるだろう。しかし、上達しない、成果が出ない、そんなときも正しく努力しているかぎり成長(力を蓄えている)しているのだ。



為せば成る 為さねば成らぬ 何事も 成らぬは人の 為さぬなりけり

上杉 鷹山